

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年1月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070400641
法人名	有限会社 アイケアほしの
事業所名	グループホーム まんさく
所在地	群馬県伊勢崎市今泉町2-831-1 (電話) 0270-20-5355

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年12月4日

## 【情報提供票より】(19年 12月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建て	1階	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	医療費:実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円

### (4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.8歳	最低	67歳	最高	104歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊勢崎佐波医師会病院・山田外科内科医院・黒羽根内科医院・山脇歯
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員が理念を共有し、そのもとにより良いケアを目指した取り組みを行っている。管理者が地元の人間であり、これまでに地域と築いてきた良好な関係性をホームの運営にも活かしている。入居者への対応も優しく穏やかで、尊厳を大切に、心のこもったケアとなっている。一日ぼんやり過ごすのではなく、体操・歌・散歩など、日々に変化を持たせ楽しく元気に過ごせるよう支援している。職員研修の機会を積極的に持ち、職員は意欲的かつ公平にそれらに参加し、認知症ケアに関する最新の知識と技術を修得するよう研鑽に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題であった金銭管理について、これまで現金を所持することから生じるトラブル防止のため、金銭所持を行っていなかったものを、家族とも相談のうえ入居者の能力に応じて金銭を所持できるよう支援に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価表の作成は管理者が行っており、評価内容を職員全員が閲覧できるよう掲示等するなどの取組みは行われているものの、職員間で共通の理解が為されているとは言い難い状況である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一回開催され、市職員・家族・区長・民生委員・管理者が参加している。会議では、ホームの状況説明が行われ、あまり積極的な意見交換や討議が行われていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見等がほとんどなく、それを引き出す機会が少ない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域で行われる夏祭り・文化祭・敬老会等の行事に参加したり、散歩時にはあいさつをするなど、地域の中での生活に溶け込めるよう努力している。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を4つ掲げ、わかりやすいものとなっているが、設立以来同じものとなっており地域密着型サービスの理念とはなっていない。	○	地域と密着したサービスを心がけ実践しているので、地域密着型サービスとしての理念を話し合われ創りあげることが期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者を含め職員も理念を理解し、その実践に向けたケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方が作ったものを持ってきてくれたり、毎日のように訪ねてきてくれる。近くの集会場で行われる地域の夏祭り・文化祭・敬老会等に参加し、地域との付き合いを大切にしている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善課題の金銭管理等に取り組んでいるが、職員と管理者が共に評価を明確に理解して、ケアに活かさきれていない。	○	管理者と職員は、評価を共有し、話し合いの結果をケアに生かしていくことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。出席者は、管理者・市職員・区長・民生委員・家族が参加している。会議では、ホームの状況報告等は行われているが、積極的な意見交換や討議があまり行われていない。	○	会議では参加メンバーからの率直な意見がひきだせるよう、また意見を反映した取り組みがなされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームパンフレットを市の窓口に置いてもらったり、市役所への来所時は意見交換を行うなど連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りを、年に2～3回送付したり、家族等の来所時に、外出時に撮った写真を渡したりしているが、家族への報告が不定期で、日常の報告がなされていない。	○	家族へ入居者の暮らしぶり等を定期的に報告し、家族とのつながりをより密接に保つよう、ホームからの積極的なアプローチを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、家族からの不満・意見・苦情がでていないが、家族等が積極的に意見等を表せる機会が少ない。	○	目安箱・来所時の言葉がけなど、家族の意見等を積極的に引き出すような工夫を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の入れ替わりがなく、継続的なサービスの提供が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市の開催する研修、介護予防サポーターの講習、AED講習、心肺蘇生法講習等への参加の他、職員自ら希望する研修にも参加できるよう配慮し、職員も積極的に参加している。また研修内容は、資料をコピーし引き継いでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームの職員との交流・交換研修などを通じ、サービスの質の向上へと取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には、他のホームを見てもらったり、家族や本人に来所し見学してもらったり、相談を受けたりしながら、納得して入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が、共に体操・歌・掃除・洗濯たたみを行い、会話を大切にし、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前・入居後に本人・家族からお話を聞き、アセスメントシートを活用し、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャー(管理者)がアセスメントを行い、介護計画を作成しているが、職員・必要関係者からの聞き取り・意見のすくい上げが少ない。	○	ケアプラン会議等開催の場で、職員の意見をより多く取り入れたり、必要関係者からの情報収集が行われた計画作成となることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一回見直しを行っているが、ケアプラン会議の開催がなく、職員・家族からの意見を取り入れた計画とまではなっていない。	○	ケアプラン会議等を開催し、職員や家族の意見を反映した見直しとなることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの協力医療機関と連携をとりながら、適切な支援が受けられるよう体制を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を把握し継続的に受診援助をしている。また、ホームの協力医療機関には、相談をしながら適切な支援が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針が今のところできておらず、その都度個々への対応となっている。	○	方針を作成し、面接時・入居時・入居後と家族との話し合いを行い、方針の共有ができることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、言葉かけは丁寧で、入居者を年長者として敬い、対応をしている。失禁等は居室にて対応し、周囲に配慮し小さな声で対応している。記録は事務所で管理され、情報の漏洩を防止している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の中で、その日の過ごし方や希望を聞き、それに沿った生活になるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、職員が行っている。職員は、入居者と同じものを食べているが、介助を要する方もいるため、同席しての食事とはなっていない。	○	要介助者がいて、介護中心になってしまうのは仕方が無いかもしれないが、テーブル配置や職員配置等の工夫で一緒に食事が楽しめるようになることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は入浴が出来るよう援助している。パット等を使用している方には毎日入浴できる支援を行っており、入居者の希望にそって支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物たたみ・花への水遣り等役割があり、入居者も積極的に参加し楽しみながら役割を果たしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々近くの集会場まで散歩に出かけたり、年2～3回の遠出、外出など戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、施錠されておらず、日中は開放的になっている。昼夜問わず居室も鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、職員と入居者で避難訓練を行っているが、近隣や消防署等との連携協力がなされていない。	○	運営推進委員会等にて区長・民生委員等へ協力を求めると共に、避難訓練に参加協力してもらったり、消防署の協力を仰ぐなどこれからの取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500kcalを目安に、調理師免許のある職員がバランスの良い食事を提供している。摂取量についても確認し、記録されている。入居者の状況により、粥・きざみ食への対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や絵、季節のものを飾り、日当たりも良く居心地の良い共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に応じ使い慣れたものを持ち込んだり、各々の個性に合わせた居室作りとなっている。		